



紹介者

光吉 敏郎

住友林業
取締役 執行役員社長



三宅 孝之

ドリームインキュベータ
取締役社長COO

人生最大の発見(かも)

7年前、「イライラから解放される素晴らしい言葉」を発見しました。

それは、「ラッキーとアンラッキーはバランスする」ということ。

2016年放映のドラマ「重版出来」で、高田純次さん演じる出版社の社長が荒れていた青年時代に、釣りをしている老人に言われた言葉。

「運ば貯められるぞ。世の中はな、足して引いてゼロになることできとぉ。…ええことしたら運は貯まる。悪いことしたらすぐに運は減りよる。…問題はどこで勝ちたいかや」

その後、ゴミを拾う、困った人を助ける、宝くじが当たったら本のシオリにしてみよう…など、ラッキーを恐れ、アンラッキーにむしろホッとすると、という大人になった高田純次さんの行動シーンに「これだ！」と。

何かやっているとなると本当に些細なことで不運は起こります。忘れ物をする、モノをなくす、料理をしていたら材料が落ちる、電車で遅れる、アライアンスがなかなかまとまらない、株主が変なことを言うてくる…。

これらは全て運が貯まる事象です。悪ければ悪いほど運が貯まってその分、良いことが起こる。と思うと、不運を楽しめるようになりました。くだらないけど今までなら「イラっとしがちな些細なアンラッキー」は、むしろありがたいことになりました。

逆に、良いことが起こると不安になります。もっと良いことしなきゃまずいぞと。最初は「え、そこまでやる？」と思った高田純次さんの行動が理解できるようになりました。今では近くの神社への寄付が癖になり、地区で神社への一番の寄付者に。境内を歩いていると宮司さんから挨拶されちゃいます。

今年は新年のおみくじを2回引き、いずれも「凶」。良い1年になりそうだとワクワクしています(笑)。

▶▶ 次回リレートーク

樺島 弘明

エル・ティー・エス
取締役社長CEO